



CCS便り

NPO 法人 キャリア・カウンセラー札幌
平成 30年 10月 5 日発行

会報 Vol .15

〒060-0052 札幌市中央区南2条東6丁目 2-1
B-205

TEL. 011-596-6242

FAX. 011-596-6267

E-mail ccs2012@vega.ocn.ne.jp

URL <http://www.ccsap.jp>

法人活動の経過に思うこと

我々の法人も活動開始から6年が経過した。この6年間、様々なことが起こり、そのことに必死で対処しているうちに時間が過ぎていったように感ずる。

何度考えても、繰り返し想起されるのは結成の話し合いが済んで、会議室のあるビルの入り口を一步出た時の希望に満ちた幸福感だ。

これから誕生する組織への期待感や法人活動に参画出来る幸福感等々が入り混じってのものだったのだろう。

そして、この幸福感に満ちた準備や出発を経て、大変さはいつもあったものの2012年の法人設立からの3年間は順調に会員数も増えて資金も充実し内容の質の向上に努めた結果、活動内容も充実し協力いただく外部のプレーンの方々も増え、今考えれば理想的な発展を遂げたと思われる。

その後の1、2年は半年以上の活動休止を含む、停滞と暗黒の時代だったのではなかろうか。

この間に、方向性の違いや意欲の低下やボランティア意識の消滅などの理由で多くの会員が入っては短期間で抜け、主要メンバーも残念ではあるが、かなり去っていった。

しかし烏合の衆よりは質の高い意欲的な少数精鋭のほうが戦力で勝ることは歴史が証明している。

我々は今後とも、この少数精鋭でやっていると信じている。

そして、昨年度は長い休止から抜け出し、以前よりもはるかに高いレベルでの活発な活動が再開できたように感じている。

この原因をいま確定するのは難しいが、主要メンバーの活躍と長年陰で支え続けてくれた会員の協力なしに上記のことは成しえなかったとつくづく思う。

それと陰のサポートメンバーの協力も重要だったし、今後もこうした方々が増え続けて欲しいものだ。

新年度は諸事業の計画の完遂と新規事業の企画と実験的展開に向けての本格的な再出発の2年目にすべく活動に邁進していくつもりだ。

そして我々の活動がキャリアカウンセラーの普及、啓蒙に役立てるように努力していきたい。

創造的な生活とは

キャリア・カウンセラー 平澤 麦生

創造的な人生に手遅れはない。問題は、その創造的なことにいつ目覚めるかだ。リタイアの後、その数年後、高齢者になってかなりたってから、仕事に就いている最中に突然、きっかけさえあれば、いつでも創造性には目覚めるものだ。これがいきいきと生きるための秘訣らしい。

リンダ・グラットンなどのライフシフトにある、ステージとエイジの乖離に、中高年になってからいきいきと生きることの必要性は示されている。ライフシフトでは、過去の慣例の中高年＝引退は現代では別のステージでの生き方に変化していることが紹介されている。

その反面、快樂追求のためにだけやっていることには創造性は余りないであろう。ゆとりを持った遊びは重要だが、単なる個人的な満足だけの遊びや遊びのようなものには、学びもなければ充電もない。

こんなものためだけに、費やす時間には何の価値もない。やはり、趣味にしても深さが必要だし、社会的な活動などはもっと良い筈だ。そのための必要資金確保のための仕事も良いであろう。

いずれにしても、無価値なことに費やす時間は浪費というものだ。また、趣味の中にも創造性が発揮できるものは多い。絵画、音楽、工芸、短歌、俳句、書道などなど、実に多彩で創造性を発揮できるものは沢山ある。

これに関わっていることでいきいきと生きることが出来るようになった人も多いただろう。これも悪くはないのだが、実は趣味はかなり金がかかる。以前聞いた話だが書道の作品の額装には数十万かかるものは珍しくないらしい。有名書家の弟子である知人は個展を開いたが、相当に金がかかったために次回は数年後に出来るかどうかだ、と話している。

その他の趣味にも金がかかるものは多い。茶道や華道、踊りなどの伝統的な趣味も実は、多額の金を必要とする。リタイアの後の金欠では資金ショートで続行不能もあり得ることだ。創造性に富んだ生活をし若々しく生きる必要は高いが趣味は金がかかって出来ない可能性もある。

従って、余り資金を必要としない社会活動やボランティアの中で自分の創造性を発揮できれば一石二鳥の効果と言えよう。無から有を作り出す、社会活動の中にも様々なプランニングがあり個人の創造性の発揮の場所は数限りなくある。

一方、自分の行っている仕事の中でも、これの発揮が可能なものは無いであろうか。過去に管理の仕事に、それを見つけたことがかなりあった。一つは事業管理の時に、ある教室の運営の内容変更を実施した時のことだ。この教室の事業拡大による利益の拡大は、その時点での事業単体のみならず属していた会社全体に影響のあるものだった。その改良に向けて、様々な方策を実行した。展開地域の拡大、集客方法の改善、講師陣の変更、テキストの改良など。こんなところの収支改善にも「創造性」はあるのではなかろうか。

何故ならば、いずれの方策にもアイデア、仮説、仮説の検証、実行計画などの「プランニング」の作業が伴うからだ。

例えば、集客方法の改善にはチラシの改良、口コミでの集客のための方法作り、宣伝方法を新聞と並立してネット広告を実施すること、友達紹介の促進策などの様々な企画があり、それを実行し効果測定をすることには、ある意味での（無から有を作り出す）創造性があると思われる。

更に、営業の仕事でもそれを見つけたことがかなりあった。一つは駆け出しの営業マンの時に、店頭のプロモーションの内容に工夫を凝らしたことだ。

もう少し時間が経ってから企画業務を担当した時にも、ある製品群の店頭装飾に凝った内容を加えて独自の売り場を確立することに腐心し、担当地域でのその製品群の売上を大幅に引き上げたこともあった。

それ以外にも、更に大きなレベルでは本社での事だが、ある事業担当をした時に予算の制限を受けた中で広告の内容変更を図らなければならない場面があった。

その時に、従来のフィルムの一部を変更し音楽を変える事を行った。

音楽は結果的には過去のアーティストの別の曲で決定したが、その候補として大物フォークシンガーの最新曲があったことを懐かしく思い出す。

これらのことは全て過去に担当した仕事のうえでのことだ。

創造性は、どんな場面でも活かせる場合があるのではないだろうか。

自分が求めさえしていれば。

(完)

就職支援相談会

日時 平成30年10月16日(火)

平成30年12月18日(火)

平成31年2月16日(火)

時間 13:00-16:00

場所 わくわくホリデーホール
会議室

料金 無料

お申し込みはメール、電話、またはファックスにて

編集後記

秋の風がさわやかな季節になってきました。

新年度の活動も6ヶ月が過ぎました。そして順調に各事業が展開されています。

社会貢献のために、意欲的な活動をと考え、残りの半年にかけていきたいものです。

今より少しでも多くの協力者が増えることを期待しています。(T・H)